

破壊者と盗人の特典を
貫い転スラ世界に

アスハラ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

仮面ライダーデイケイド、デイエンドの転生者はその瞳に一体何を写し出すのか？

目次

第0話	1
第1話	8
第2話	19
第3話	32
第4話	40
第5話	55
第6話	63
第7話	74
第8話	91
第9話	102
第10話	117
第11話	125

第12話	136
第13話	153
第14話	160

第0話

男

「あれ？ここ何処だ？俺死んだ筈・・・」

ある男が白い空間にいた。

???

「此処は『転生の間』じゃ」

男が振り返ると老人がいた。

男

「じいさん誰だ」

じいさん

「じいさんってワシは『神』じゃ」

男

「で、神が何の用だ？」

神

「お主転生させようと思ってるの」

男

「転生？あの小説であるあれか……特典とやらもあるのか？」

神

「あるぞ。先に選ぶか？」

男

「じゃあ、デイケイドライバー、デイエンドドライバーでデイケイド、デイエンド版のケー
タツチ、変身出来るのは鎧武まで」

神

「何故鎧武までなんじゃ？」

男

「鎧武までしか見てないんだよ……」

神

「なるほどの」

男

「あ、それと最強フォームにも普通に変わりたいんだが出来るのか？」

神

「可能じゃ」

男

「そうかそれと家事と料理スキルMaxで……平成15ライダーと修行したいんだが
いいか？」

神

「構わんぞ（パチン）」

神が指パッチンしたら男は姿を消した。

神

「さて、マシンデイクイダー改造させるか。次いでにカードもオリジナルを作成させよう」

男

「はくキツかった」

神

「お疲れじゃな」

男

「15ライダーとの修行はキツかったけどお陰で剣術と体術がかなり上がった」

神

「良かったの。あ、それとマシンディケイダーを改造させといたぞ。平成15ライダーのバイクに変わるぞ」

男

「サブもか？」

神

「可能じゃ。次いでに燃料は無限じゃ」

男

「ほう……そう言えば顔と体はどうなるんだ？」

神

「好きな姿になれるぞ」

男

「じゃあ、身体は門矢 士で、門矢 士版のトイカメラも次いでに欲しい」

神

「分かった。他にはないのか？」

男

「無いが俺は何処に転生するんだ？」

神

「転スラじや」

男

「転スラって他に転生者がいるのか？」

神

「まあ、おるにはおるが関わるかはお主が決めなさい。あ、それとオリジナルカードも作ってたぞ」

男

「オリジナルカード？」

神

「まあ、単なる属性カードじや。カードスキャンしたら、そのスキャンした属性がでる仕組みじや」

男

「ふくん。回復系も？」

神

「あるぞ」

男

「てか、何でオリジナルカードを？」

神

「転スラの世界は魔法世界じゃからな、色々用意した。備えあれば憂いなしという奴じゃ」

男

「あ、オーロラは？」

神

「普通に出せるがお前が指パッチンすれば家が出る」

男

「家？」

神

「やってみよ」

パチン

パアアアアア！

男が指パッチンしたら家が出現した。

男

「あ、『光写真館』！」

神

「指パツチンしたら光写真館が出る」

男

「スゲエ……」

神

「まあ、ワシが出来るのはここまでじゃ。頑張れよ通りすがりの仮面ライダーよ」

男

「ああ、色々ありがとうなじいさん」

パアアアアア！

男は、オーロラを出現させ男はオーロラを通り消えた。

神

「あ、しもうた二期のライダーになるのなら『ネオデイクイドライダー』にさせなくてはいかんかったTV版はフォームライド出来とらんが出来るようにさせよう」

第1話

《森》

シユウウウウウ

門矢 士

「此処が転スラの世界か？何だ森の中のようだな・・・」

オーロラから門矢 士として転生した男は森に現れた。

門矢 士

「俺本当に門矢 士として転生したのかな？デイケイドドライバーとデイエンドドライバーは何処だ？」

シユウウウウウ

門矢 士

「あ、オーロラだ」

オーロラからデイケイドドライバーとデイエンドドライバーと2種類のケータッチと手紙が現れた。

門矢 士

「あれ？デイケイドドライバーのバックル何で色が違うんだ？」

門矢 士は本来のデイケイドドライバーの色が白の筈がマゼンダとなっていた事に困惑した。

門矢 士

「デイエンドドライバーは普通だけど……あのジジイの手紙に何か手掛かりがあんのか？」

『この手紙を読んできると言う事は上手く転生出来たようじゃな。デイケイドドライバーが違う事に驚いと思うが仕方がないじゃろ二期のライダーになるんじゃから本来のデイケイドドライバーでは限界がある。じゃからそのデイケイドドライバーはデイケイドドライバーではなく、ネオデイケイドドライバー』という名じゃ』

門矢 士

「ネオデイケイドドライバー？」

『本来のネオデイケイドドライバーはフォームライドはせんがフォームライド出来るようにしておいた。ライド・ブッカーに属性カードがあるから確認しておくようにじゃあ頑張れよ』

ボツ

門矢 士が手紙を読み終えた後手紙が独りでに燃えた。

門矢 士

「あのジジイ俺、白が良かったな……（ガックシ）」

パカッ

門矢 士は、ライド・ブツカーを確認した。

門矢 士

「15ライダーカードとサブライダーカードも全部あるな。オリジナルとやらもとい属性カードは……」

門矢 士は属性カードを確認した。

門矢 士

「火・水・土・雷・風・光・闇・木・鏡・幻・毒・麻痺・治・眠まだ他にあるな……ちよつと歩き回るか」

ズズン!

門矢 士

「なんだ?」

門矢 士は音がした方に向かった。

猪人間？

「ブフオ」

角女

「ヒッ（ガタガタ）」

桃髪の女の子が鎧を着ている猪人間軍団に囲まれていた。

ガサッ

門矢 士

「なんだアイツら？猪人間と鬼の……お姫様？つてヤバそうだな。転生して早々戦闘かよ」

猪人間？

「グフフフお前を食えば俺はまた強くなれる」

鬼のお姫様？

「お兄様……（ガタガタ）」

???

「アタックライド・ブラスト！」

ズドドドド！

猪人間達？

『グハア!!』

鬼のお姫様?

「!？」

突然何処からか猪人間達が攻撃され数人倒された。

猪人間? 1

「な!?!何処から!?!」

門矢 士

「ん〜やっぱりブラストはデイエンドドライバーに限るな」

猪人間? 2

「に、人間!?!」

門矢 士

「ああ、人間だ。よってたかってお姫様を食べるなんて感心しないな」

猪人間? 3

「人間一人で何が出来る!」

門矢 士

「俺は、まだこの世界に来たばかりだからよく分からんがお前達一つ間違っている。俺は、一人じゃないんでね」

猪人間？4

「何？」

ガシャ

門矢 士は腰にネオデイケイドドライバーを装着した。

門矢 士

「この世界の初戦闘、頼みます。『デイケイド』さん。いくぞー！変身！」

ネオデイケイドドライバー

〔カメンライド〕

ガチャン！

ネオデイケイドドライバー

〔デイケイド！〕

門矢 士はカードをネオデイケイドドライバーの縦になっているバックルにカードを入れ左右のサイドハンドルを中央に回転させ彼の周りに14の半透明の影が現れそれらが門矢 士に重なると門矢 士の身体が、マゼンタ色の戦士。仮面ライダーデイケイド”となった。

仮面ライダーデイケイド

「んん初めて変身上手くいったな」

猪人間? : 5

「な、なんだ貴様」

仮面ライダーディケイド

「一応、通りすがりの仮面ライダーだ」

鬼のお姫様?

「仮面ライダー?」

仮面ライダーディケイド

「そこにいなお姫様」

鬼のお姫様?

「お姫様?」

猪人間? : 6

「慌てるな奴はたった一人だ」

仮面ライダーディケイド

「だから俺一人じゃないって。まあ、お前らに『カメンライド』させてくれるのか分かるんがな」

ガチャン

仮面ライダーディケイドはライド・ブツカーをガンモードにした。

仮面ライダーディケイド

「さして初戦闘頑張りますか」

ドキュウ!

猪人間? 7

「ガハア!」

ディケイドは銃を猪人間? 7に撃ち猪人間? 7はディケイドの銃に倒れた。

仮面ライダーディケイド

「まあ、最初に言っておく。俺はお前らよりかくなり強い!」

ガチャン

ディケイドはバックルを縦にしてプラストカードを入れた。

ネオディケイドドライバー

「アタックライド・プラスト!」

ズドドド!

猪人間? 達

『ギヤアアアア!』

ディケイドはプラストで猪人間? 達を撃ち残りは猪人間? 1だけとなった。

仮面ライダーディケイド

「フウ、意外と俺いけるな」

猪人間？！

「調子に乗るな！」

ガチャン！

ガキン！

仮面ライダーディケイド

「悪いがさつさと決める」

ネオディケイドドライブ

「アタックライド・スラッシュユ！」

仮面ライダーディケイド

「ハア！ハア！テリヤア！」

ザン！ザン！ザアン！

猪人間？！

「ギヤアアアア！お、お前はいい、いったい……何、者だ……」

仮面ライダーディケイド

「仮面ライダーディケイド！覚えておけ！」

猪人間？！は剣を使いディケイドを斬ろうとしたがディケイドは、ライド・ブッカー

をガンモードからソードモードにさせ猪人間？1とつばぜり合いになったがディケイドはバックルを縦にしてスラッシュユカードを入れ猪人間？1を連続斬りして猪人間？1は倒れた。

鬼のお姫様？

「あ、あの助けていただきありがとうございます」

仮面ライダーディケイド

「まあ、気にするなお姫様・・・ん？足怪我してるな」

鬼のお姫様？

「あ、はい『オーク』から逃げてた途中足を挫いてしまったんです」

仮面ライダーディケイド

「ちよつと待つてな」

ガシヤン

ネオディケイドドライブ

「アタックライド・ヒーリング！」

仮面ライダーディケイド

「動くなよ？」

鬼のお姫様？

「は、はい」

ピト

パアアアアア!

仮面ライダーディケイド

「これで大丈夫だな」

鬼のお姫様?

「あ、足が治った!?!」

ディケイドはヒーリングカードを使い手が光り鬼のお姫様?の怪我した足をさわり鬼のお姫様?の足は治った。

鬼のお姫様?

「あ、あの貴方は一体……?」

仮面ライダーディケイド

「通りすがりの仮面ライダー……もとい」

ガシャン

ディケイドはネオディケイドドライバーからディケイドのカードを抜いた。

門矢 士

「人間の門矢 士だ」

第2話

《森》

鬼のお姫様

「では、門矢様は『転生者』なのですか？」

鬼のお姫様と士は情報交換し転生者とオーガの里の事を話していた。

門矢 士

「そうだ理解してくれて感謝するよお姫様」

鬼のお姫様

「あ、あのお姫様って何ですか？」

門矢 士

「君みたいな娘だけど？」

鬼のお姫様

「私がですか？」

門矢 士

「うん。俺からして見たら君の格好お姫様だよみたいだったんだけど悪かったか？」

鬼のお姫様

「い、いえそんな事ありません」／／／／／

門矢 士

「まあ、もうすぐ日が暮れるしのじ……」

ブウウウン!

門矢 士

「は?」

鬼のお姫様

「え?」

ヒュン!

トス

ギユウウウウウ!

門矢 士、鬼のお姫様

『俺のカードが猪人間／門矢様のお札がオーク／を吸い込んだ……』

ヒュン!

〔オークの肉×10〕

ライド・ブツカーから独りで一枚のカードが出て来てディケイドが倒したオークの

死体を吸い込んだ。

鬼のお姫様？

「え、え」と

門矢 士

「あ、よく見たら “ブレイドの封印のラウズカード” じゃん」

シユウウウウウ

鬼のお姫様

「門矢様あれは？」

士達の前にオーロラが現れ手紙とディスクとメモリとスイッチと指輪が現れた。

門矢 士

「ちよつと待つてて」

『いや、すまんすまん、 “アニマルディスク” と “ガイアメモリ” と “アストロスイッチ” と “ウィザードリング、ビーストリング” 渡すの忘れとつた。 “カンドロイド” は “ライドベンダー” にあるからの。セルメダルは無限あるからの何度使つても可能じゃよ。 “封印ラウズカード” の説明するぞい。封印ラウズカード通称コモンブランクは倒した魔物を封印させるカードじゃ。吸い込んだる間に解体されとるから倒した数の数字が書かれる仕組みじゃ』

門矢 士

「へ〜リングはどうなるんだ？」

『リングはネオデイケイドベルトにかぎせばガルーダ達が出る仕組みじゃ』

門矢 士

「成る程」

『あ、ちなみにライドベンダー自販機版で光写真館に置いてある変形は出来るマシン
デイケイダーも、光写真館に置いてある。』

門矢 士

「また、急に知らんカードがあつたら教えてくれよな」

『分かつとる分かつとる』

ボツ！

鬼のお姫様

「キャ!？」

手紙を読み終えた後独りでに燃えた。

門矢 士

「あのジジイ……」

鬼のお姫様

「だ、大丈夫ですか!？」

門矢 士

「大丈夫だもう日が暮れるし今から家を出すぞ」

鬼のお姫様

「家を出す?」

門矢 士

「ちよつと待ってな」

パチン!

シユウウウウウ

《森／光写真館》

鬼のお姫様

「!!?」

鬼のお姫様は家が出て来て驚いていた。

門矢 士

「本当に出たな。外には手紙の通りライドベンダー自販機版、隣にはデイケイドのバイクマシンデイケイダーがあるな」

鬼のお姫様

「あ、あの門矢様!？」

門矢 士

「何だ？」

鬼のお姫様

「貴方様は何者ですか・・・？」

門矢 士

「ただの人間で転生者だ。中に入れよ夜になったら猪人間共が襲ってくるかも分からんぞ？」

鬼のお姫様

「は、はい」

ガチャ!

バタン

《森／光写真館玄関前》

門矢 士

「うわあ。中は光写真館その物だ（パアアアアア）」

鬼のお姫様

「門矢様？」

門矢 士

「あ、すまない自分がこれから住む家を見ていなかったから俺は今から探検するけど一緒に行くか？」

鬼のお姫様

「あ、はい。ご迷惑でなければですが……」

門矢 士

「構わんぞ」

士と鬼のお姫様は写真館を探検した。

《森／写真館作業場》

ガチャ！

門矢 士

「うわあ、スゲーこの部屋あの人が使っていた作業場じゃないか」

鬼のお姫様

「あの、このお部屋は？」

門矢 士

「この部屋はこの俺が持つてるカメラを撮ったらこんな風に出るんだよ」

士は写真を鬼のお姫様に見せた。

鬼のお姫様

「わあ、キレイな絵ですね」

門矢 士

「絵じゃなく写真何だけど・・・まあ、ちよつと一枚撮らせて」

鬼のお姫様

「？」

カシヤ

士はトイカメラで鬼のお姫様を撮った。

門矢 士

「後のお楽しみだ♪」

鬼のお姫様

「??？」

門矢 士

「さ、次行こ♪」

《森／光写真館食堂、撮影場》

鬼のお姫様

「このお部屋は？」

門矢 士

「食堂兼撮影場だ」

鬼のお姫様

「食堂……（クク）」

鬼のお姫様

「あう……／＼／＼／＼／＼」

門矢 士

「さて、先ずは飯にしよう。座って待ってな」

鬼のお姫様

「は、はい」

カチャカチャ

士は和食料理を作った。

門矢 士

「お待たせ」

鬼のお姫様

「わあ、美味しそうありがとう．．．．．ごぎいます（ブルブル）」

鬼のお姫様は安心したのか震えだした。

門矢 士

「．．．．無理して、食べる必要ないぞ」

鬼のお姫様

「い、いえ無理なんて（ブルブル）」

門矢 士

「里での事思い出したんだろ？」

鬼のお姫様

「はい．．．．（コクリ）」

門矢 士

「それ食ったら風呂にでも入りな」

鬼のお姫様

「は、はい……」

鬼のお姫様は土が作った和食を食べて風呂場に案内してシャンプーとリンス、ボディーソープの使い方を教えた。

《森／光写真館、風呂場》

チャップン

鬼のお姫様

「お兄様……お父様……お母様（グスツグスツ）」

《森／光写真館、風呂場前》

門矢 土

「……書き置きしところ」 ↑ タイミングを逃した。

『寝間着置いとく』

《森／光写真館、玄関前》

門矢 士

「えくとセルメダルセルメダル」

チャリンチャリン

ピツ×5

ガタタン！

士はライドベンダー自販機版にセルメダルを5枚入れ赤い缶を選び赤い缶が5個でた。

カシユ

カンドロイド

『タカカン♪』

缶が鳥型のカンドロイドタカカンに変わった。

門矢 士

「あのお姫様の兄達を探してくれ多分格好はポロポロだから見つけたら知らせてくれ」

タカカンドロイド×5

『ピイピイ』

タカのカンドロイドは鬼のお姫様の兄達を探しに向かった。

ドタバタ

鬼のお姫様

「門矢様!?!何処ですか!?!」

バタン

鬼のお姫様

「門矢様!?!外におられたのですね（ホッ）」

門矢 士

「ああ、わる」

鬼のお姫様

「?」

門矢 士

「お、お前!?!服は!?!」

鬼のお姫様

「え?!.キ、キヤアアアアア!!」

門矢 士

「これは.俺が悪いのか?」

第3話

《森／光写真館玄関前》

〈夜〉

門矢 士

「いや〜お姫様悪かったな」

鬼のお姫様

「い、いえ私が悪かったので……」

門矢 士

「いや〜謝罪は受け入れるが……服着てくれ」

鬼のお姫様

「で、ですが何処にも行きませんか？」

門矢 士

「この状況で行けるわけないだろ……？」

今、士はどんな状況なのかというところ、ライドベンダー自販機版とマシンディケイダーが土の上にあったのだ。要は下敷きになっていた。地面に顔を向けている状態です。

何故こうなったかというと・・・

鬼のお姫様

「え？・・・キ、キャアアアア!!見ないでくださあああいい!!」

ガコ!↑ライドベンダー自販機

ブウウウウン!!

門矢 士

「ええ!?ライドベンダーを持ち上げた・・・つてこつち来たあああ!?!」

ドゴン!

門矢 士

「グエエエエエ!」

鬼のお姫様

「フエエエエエン!」↑混乱中

ガコ!↑マシンデイケイダー

門矢 士

「チョッ!お姫様おち」

ブウウウウウン!!

ドゴン!

門矢 士

「ギャアアアアアア!」

という訳である。

門矢 士

「てか、早く服着てくれ風邪引くぞ?」

鬼のお姫様

「本当に何処にも行きませんか?」

門矢 士

「行かないよ上にライドベンダーとマシンデイケイダーが乗ってんだから動けないから

ね……」

鬼のお姫様

「で、ですが着替えは……」

門矢 士

「風呂場に置いてあるよ」

鬼のお姫様

「お風呂場ですか？すぐに着替えますので待っていてください」

パタパタ

門矢 士

「動けないっての……」

鬼のお姫様

「お待ちせしました！」 ↑ 着替えた

門矢 士

「はや……」

ガコガコン！

お姫様はマシンドイケイダーとライドベンダーを退けた。

門矢 士

「助かった」ゴキゴキ

鬼のお姫様

「すみませんでした」

門矢 士

「いや、気にするな」

鬼のお姫様

「あ、あの外で何を？」

門矢 士

「君のお兄さんを探してもらったんだよ」

鬼のお姫様

「え、本当ですか!？」

門矢 士

「ああ、明日には分かると思うよ」

鬼のお姫様

「あ、ありがとうございます門矢様」

門矢 士

「・・・ふっ、さっさと中に入るぞ」

鬼のお姫様

「はいー!」

《森／光写真館二階》

門矢 士

「ほら、この部屋がお姫様の部屋だ好きに使いな」

鬼のお姫様

「あの．．．一緒に寝てほしいんですが．．．ダメですか？」

門矢 士

「．．．．．はっ、いや、ダメに決まってるだろ!? 普通男と女は一緒に寝るのは好きなもの同士でなくてはだな．．．」

鬼のお姫様

「それは門矢様の世界の話ではないですか。それに私一人になりなく無いんです」ウル

門矢 士

「う．．．」タジ

鬼のお姫様

「お願い．．．します」ウルウル

門矢 士

「……ワカリマシタ」ガツクシ

《森／光写真館二階お姫様の部屋》

鬼のお姫様

「zzz」

門矢 士

「眠れん……」

今の状況説明したら士はお姫様に負けて一緒に寝ていてお姫様が抱き付いて寝ていた。士は一睡も出来ない。

《森／奥》

老人

「若、今戻りました」

若

「どうだった？」

老人

「妹様は何処にも・・・」

若

「そうか・・・妹よ無事でいてくれ」

タカカン

『ピイピイ♪』

第4話

《森／光写真館二階お姫様の部屋》

〈朝〉

チチチ

鬼のお姫様

「zzz」

門矢 士

「……一睡も出来なかった（グツタリ）」

士はお姫様が一緒に寝てほしいと言われ一緒に寝たが士は一睡も出来ない状態で限
ができていた。

門矢 士

「お姫様に悪いけど離してもらって朝飯作る……」フラフラく

《森／光写真館食堂》

門矢 士

「ちよつとこれ使おう．．．（プルプル）」

デイエンドドライブ

〔アタック・ライド・ヒーリング！〕

ドゥーン！

門矢 士

「よっしゃ！飯作ろう（シャキン）」

士はヒーリングカードを使って寝不足を治した。

トントトン

グツグツ

バタン！

ドタバタ

バタン！

鬼のお姫様

「門矢様!?!」

門矢 士

「お、お姫様おはよう」

鬼のお姫様

「どうして急にいなくなっただんですか!？」

門矢 士

「朝飯作ろうかと思って・・・」

鬼のお姫様

「どうして起こしてくれなかったんですか!？」

門矢 士

「(あんなカワイイ寝顔して起こせる訳ないだろ」

鬼のお姫様

「か、カワイイ寝顔・・・(ポン」

門矢 士

「どうかしたのか?」

鬼のお姫様

「い、イイエ何でもありません(アセアセ／＼／＼／＼／＼」

門矢 士

「そ、そうか。悪いが皿並べてくれないか?」

鬼のお姫様

「は、はい！（アセアセ）」

門矢 士

「今日は洋食だ」

ガシヤン

鬼のお姫様

「キャ!? 門矢様これは？」

お姫様はトースターの事を聞いた。

門矢 士

「俺の世界の機械だ。このパンを焼く為の機械なんだよ」

鬼のお姫様

「へ〜（マジマジ）」

門矢 士

「パンにはバターやその他を塗ればまたさらに美味しくなるよ」

鬼のお姫様

「で、では、先ずは……」

鬼のお姫様

「ごちそうさまでした。目玉焼きも美味しかったです♪」

門矢 士

「まさか全塗りするほどに好きになるとは口に合って何よりだ」

コンコン

鬼のお姫様

「?」

ガラッ

タカカン×5

『ピイピイ』

門矢 士

「お、タカカン戻ったか。お姫様のお兄さん見つかったか?」

タカカン

『ピイ（コクコク）』

門矢 士

「見つかったようだな」

鬼のお姫様

「本当ですか!？」

門矢 士

「ああ、確証はないけど行ってみるだけ行ってみようか？」

鬼のお姫様

「はい！門矢様ありがとうございます（ニコ）」

門矢 士

「あ、ああ・・・（撮りそこなった）＼＼」ポリ

???

「残念だけどマシンディケイダーとライドベンダーは使えないよ」

門矢 士

「え？まさかアンタは・・・（フルフル）」

鬼のお姫様

「門矢様？」

士とお姫様の前に牛若丸に登場する烏天狗と武蔵坊弁慶を合わせた人物？が現れた。

???

「?どうしたの？」

門矢 士

「『デエエエエネブさんんん!?』」

鬼のお姫様

「門矢様!? (ビクッ!)」

デネブ

「そう俺デネブよろしくね」

門矢 士

「何でいるの!?!」

デネブ

「ああ、君を転生させた手紙があるから読んでね」

『何故デネブがいるか気になるじやろ後もう一体おる』

門矢 士

「え?」

ブアサ!

青い鬼?

「やあ、初めまして『デディ』だ」

門矢 士

「・・・」

士達の前に青い鬼のテディが現れた。

門矢 士

「……ちよつと待つて下さい」

『テディもおる。何故いるかというところじゃな光写真館広すぎじゃから色々世話をさせる為にデネブとテディを送った。それと後お主にあるバイクとアイテムをある人物に届けて欲しいんじや』

門矢 士

「ある人物？」

『そやつの名は……“チェイス”じゃ』

門矢 士

「チェイス？」

『チェイスは16番目の“仮面ライダードライブ”と共に戦った男じゃ。まあ、チェイスの素性はお主の頭の中に送っておいた』

門矢 士

「なるほどだいたいわかったチェイスつて奴はかつては敵だったが色々あつて仮面ライダー側に付いたのか……で、何で仲間の為に死んだ筈のチェイスがこの世界にいるの？」

『余りにもチエイスが哀れじゃったから出来れば今度はチエイスには何者にも縛られずに生きて欲しいんじや。じゃからチエイスのベルトとアイテムを届けて欲しいんじや』

門矢 士

「はく仕方ねえな届けてやるか」

『頼んだぞ』

ボン！

門矢 士

「あのジジイ・・・ケホ」

デネブ

「“ライドチエイサー”は外にあるよ」

テデイ

「既に調整済だ」

門矢 士

「分かりました・・・」

デネブ

「出来れば敬語はやめてほしいな」

テデイ

「確かに一緒にこの家に住む以上家族のように過ごして欲しいから敬語はやめてくれ」

門矢 士

「分かった。改めてデネブ、テデイよろしくな。お姫様外に行くぞ」

鬼のお姫様

「はい」

《森／光写真館前》

士達が外に出たら紫のバイクが置いてあった。

門矢 士

「これがライドチェイサーか……紫であれば髑髏か？」

デネブ

「あ、お姫様ヘルメットかぶってね」

鬼のお姫様

「ヘルメット？」

テデイ

「これをかぶっていないと髪が乱れてしまうから……士に引かれてしまうぞ？（ボソ）」

鬼のお姫様

「かぶります．．．．」

ガッ

お姫様は、ヘルメットをかぶろうとしたが角が当たりかぶれなかった。

門矢 士、デネブ、テディ

『．．．．．』

デネブ

「今からお姫様特注のヘルメット作ってあげるよ．．．．」

門矢 士

「頼む．．．．」

〔5分後〕

デネブ

「出来たよ」

門矢 士

「じゃあかぶって」

鬼のお姫様

「はい……」

ガポ

鬼のお姫様

「ホッ……」

テデイ

「よかったな」

鬼のお姫様

「はい」

門矢 士

「後ろに乗りな」

鬼のお姫様

「は、はい」

ギユ

士とお姫様はライドチェイサーに乗った。

鬼のお姫様

「……（何だろ、門矢様の背中凄く胸が高まる）」

門矢 士

「しつかり捕まってるよ？」

ブオン！

鬼のお姫様

「は、はい」

ギユッ

ブオオオオオン！

デネブ

「気よつけてね」

《森／??側》

ある場所で複数の緑色人間？と紫の服を着ている人間と鬼の侍がいた。

男

「貴様ら何者だ？」

侍鬼

「オーガ族だ。そう言うお前は人間か？」

男

「いや、俺は死んだ筈の“機械生命体”だ」

侍オーガ

「機械生命体？」

緑人間Ⅰ

「チエイスさん」

チエイス

「お前達は下がっている“リムル”が来るまで俺が時間を稼ぐ……行け」

緑人間達

『は、はい！』

緑人間達はチエイスに言われ下がった。

オーガ侍

「まさか貴様一人で我等と戦うつもりか？」

チエイス

「ああ……」

チエイスは、変わった形の銃を取り出した。

ガチ

???

「ブレイク・アツプ…!!」

チエイスは、変わった銃の銃口を押し姿が変わった。

オーガ達

『な!?!』

オーガ侍

「貴様何者だ?」

チエイス?

「……魔進チエイサー」

女オーガ

「魔進チエイサー?」

忍オーガ

「ただの、虚仮威しではなさそうだな……」

魔進チエイサー

「来い!」

第5話

《森／魔進チエイサー側》

ドドドドン！

侍オーガ

「ハアア！」

ガキイ

魔進チエイサー

「チイ!? こうも連携されては……」

魔進チエイサーは、オーガ達と戦っていたが始めは魔進チエイサーが押していたがオーガ達の連携が良く逆に魔進チエイサーは押され始めた。

体格のいいオーガ

「ウリヤアア！」

ドガア!

魔進チエイサー

「グハアア！」

ドサ!

魔進チエイサーは体格のいいオーガに持っていたハンマーに殴られ飛ばされた。

女オーガ

「ハア!」

パッパ!

ガキーン

女オーガ

「グハ!」

魔進チエイサー

「な!? あれは!?」

忍オーガ

「何だあの小さい物は?」

魔進チエイサー

「『バイラルコア』と『シフトカー』だど!?」

魔進チエイサーは女オーガにトゲハンマーで殺られそうになったが小さな黒のミニカーバイラルコアと色々なミニカーシフトカーが魔進チエイサーを助けた。

魔進チエイサー

「何故お前達が・・・?」

ブオオオオオン!

キキイ!

???

「何だお姫様のお兄さん探してたらシフトカーとバイラルコアとやらが急に動いたから付いて行ったら・・・どんな状態だ?」

鬼のお姫様

「あの、門矢様・・・このヘルメット取れません」

門矢 士

「ああ、ちよつと待ってて・・・」

カチャ

門矢 士

「ほら、取れた」

鬼のお姫様

「ありがとうございます」

侍オーガ

「妹!」

鬼のお姫様

「え?・・・お兄様・・・お兄様ー!」

ダキツ!

お姫様は侍オーガに抱きついた。

侍オーガ

「お前今まで何処に・・・」

門矢 士

「感動の再会して嬉しいのは分かるが後回しにしな」

魔進チエイサー

「貴様何故俺のライドチエイサーに乗っている・・・」

門矢 士

「あんたがチエイスだな。その銃が『ブレイクガンナー』だな」

魔進チエイサー

「何故俺の名前とブレイクガンナーを知っている?」

門矢 士

「あるジジイにあんたにシフトカーとバイラルコアを届けろって頼まれたんでね。次いでにこのベルト『マツハドライバー・炎』をね」

士はマツハドライダー・炎を取り出した。

魔進チエイサー

「お前は一体何者だ……」

門矢 士

「通りすがりの転生者だ。悪いがアンタは今からそいつらを使って俺と戦え俺が相手をしてやるよ」

オーガ侍

「お前何を勝手な事を言っている」

門矢 士

「あんたらポロポロ何だから休んでなどうしてもやりたいんなら……」

ガチャ!

デイエンドドライバー

「カメンライド!」

門矢 士

「この仮面ライダーに勝つてからにしろ」

デイエンドドライバー

「斬月!」

ダウン！

戦極ドライバー

〔メロンアームズ！天・下・御免!!〕

門矢 士

「斬月さんそいつら戦闘不能までやって下さい」

仮面ライダー斬月

「いいだろう・・・お前達の相手は俺がやろう」

侍オーガ

「我等オーガをなめるな！」

門矢 士

「お姫様下がってな」

鬼のお姫様

「は、はい・・・」

士はディエンドドライバーにライダーカードを入れ白い仮面ライダー斬月を召喚した。

魔進チエイサー

「あれは何だ？」

門矢 士

「あの人は仮面ライダー斬月さん。仮面ライダードライブの先輩ライダーだ」

魔進チエイサー

「他にも仮面ライダーがいたのか」

門矢 士

「ああ、今は、何れぐらいいるかは知らないが仮面ライダードライブを入れたら全部で16までいるそうだ」

魔進チエイサー

「そうか……」

門矢 士

「さて、俺達もやるか」

魔進チエイサー

「ああ……」

「デイエンドドライバー」

「カメンライド！」

クルクル！

門矢 士

「変身！」

ドゥーン！

デイエンドドライバー

〔ディーエンド！〕

士は、デイエンドドライバーでカードを入れデイエンドドライバーを上へ上げ、デイエンドとは違う青い仮面ライダー、ディーエンドとなった。

仮面ライダー、ディーエンド

「さて、初のディーエンドでの戦いだ、手加減なしだ」

魔進チエイサー

「いいだろう」

ブレイクガンナー

〔チューン……マックスフレア！〕

ドゥーン！

デイエンドドライバー

〔アタックライド！ウォーター！〕

ブシヤア！

第6話

《森／魔進チエイサー側》

ドキュウ！ドキュウ！

魔進チエイサー

「やるなディエンド」

仮面ライダーディエンド

「お前もな……」

ドキュウ！ドキュウ！

《森／仮面ライダー斬月側》

仮面ライダー斬月

「さあ、始めよう」

侍オーガ

「我等をなめるなよ！」

ガキイ!

仮面ライダー斬月

「……成る程なアイツが戦闘不能させろといってた訳だ」

侍オーガ

「何?」

仮面ライダーディエンドに召喚された仮面ライダー斬月は、メロンディフェンダーでオーガの攻撃を防御しながら話し始めた。

仮面ライダー斬月

「今のお前達では俺の相手にはならんと」

バツ!

侍オーガ

「な!」

仮面ライダー斬月

「言う事だ!」

ザアン!

侍オーガ

「グハア!」

仮面ライダー斬月は侍オーガの刀をメロンディフェンダーで防いだ後受け流し侍オーガを無双セイバーで斬った。

仮面ライダー斬月

「技を使うまでもないな」

《森／魔進チエイサー側》

魔進チエイサー

「〴〵ハンター!」

ブレイクガンナー

「チューン・〴〵ハンター」

ダウン!

ガガガガン!

仮面ライダーデイエンド

「何?」

魔進チエイサーはパトカーのシフトカーで檻を出し仮面ライダーデイエンドを閉じ込めた。

仮面ライダーディエンド

「チィ!? 盗人がこんな簡単に捕まる訳には行かないんだよ!」

ディエンドドライブ

〔アタックライド・インヴィジブル!〕

パツ

魔進チエイサー

「何?!? 消えた! 何処だ……」

ドドン!

魔進チエイサー

「グア!」

仮面ライダーディエンド

「やあ、魔進チエイサー♪」

魔進チエイサー

「貴様まるで“ルパン”だな」

仮面ライダーディエンド

「へえ、そんな仮面ライダーもいたんだ」

仮面ライダーディエンドはインヴィジブルカードを使い檻から脱出し魔進チエイ

サーに襲撃した。

「ディエンドドライバー」

「アタックライド・ファイア！」

「ボウン！ボウン！」

「魔進チエイサー」

「〃ロードウィンター！〃」

「ブレイクガンナー」

「チューン・〃ロードウィンター〃」

魔進チエイサーは雪上車のような姿をしたシフトカーロードウィンターをブレイクガンナーに装着した。

「ガガガガン！」

「ボシユウウウウウ！」

「仮面ライダーディエンド」

「ウオー！」

「魔進チエイサー」

「クッ」

仮面ライダーディエンドと魔進チエイサーの火と氷がぶつかり水蒸気でお互い見え

なくなつた。

ブレイクガンナー

〔チューン・〃チェイサーコブラ〃〕

バイラルコブラ

〔シヤアアアアア!〕

仮面ライダーディエンド

〔何!?!グア!〕

魔進チエイサー

〔.....〕

仮面ライダーディエンド

〔おいおい、そんなのありかよ〕

魔進チエイサーに爪と鞭と翼が装備されスネークで仮面ライダーディエンドを攻撃した。

魔進チエイサー

〔〃バット〃〕

ブレイクガンナー

〔チューン・〃チェイサーバット〃〕

バイラルコアバット

「キィー！キィー！」

魔進チエイサーはバットのバイラルコアを使い弓型になり魔進チエイサーは仮面ライダーデイエンドを撃つ準備をした。

仮面ライダーデイエンド

「チィー！ならこれだ」

デイエンドドライバー

「アタックライド・レーザー」

ドドン！

魔進チエイサー

「グアア！」

仮面ライダーデイエンド

「グアア！」

魔進チエイサーの攻撃と仮面ライダーデイエンドの攻撃が相撃ちになった。

魔進チエイサー

「本当にやるなお前」

仮面ライダーデイエンド

「アンタもな！」

魔進チエイサー

「コブラ、〃スパイダー〃 決めるぞ」

ブレイクガンナー

「チューン・チエイサートリプル」

仮面ライダーディエンド

「何か決め技つぽいなじゃあこつちも斬月さん！」

《森／仮面ライダー斬月側》

老人オーガ

「中々やるな……」

仮面ライダー斬月

「ご老人こそ……」

仮面ライダー斬月側は、老人オーガを残し今は、斬月と老人オーガと対人中であつた。

仮面ライダーディエンド

「斬月さん！」

仮面ライダー斬月

「どうやらここまでのようだな」老人またお会いしましょう・・・ディエンド！」

《森／魔進チエイサー側》

仮面ライダーディエンド

「じゃあ行くぜ！・・・かなり危険だが」

ディエンドドライバー

「アタックライド・ボム！ファイナルアタックライド！ディ！ディ！ディ！ディ！ディ！ディ！
ド！」

カ！カ！カ！カ！

仮面ライダーディエンドは、ボムのカードと金色のディエンドのマークのカードをディエンドドライバーに入れ緑色の光のカードたちがディエンドドライバーの銃口から渦を巻くように伸びて魔進チエイサーをロックオンした。

魔進チエイサー

「これで決める」

ズドオオオオオオオン!

仮面ライダーディエンド

「どっちが勝つかな?」

ズドオオオオオオオン!

グニャアアアアア!

魔進チエイサー

「何!?!割れただど!?!」

ドオオオオオン

仮面ライダーディエンド

「グアアアアア!」

ズドドオオオオオオオン!

魔進チエイサー

「グオオオオオオ!」

鬼のお姫様

「門矢様!」

緑人間達

『チエイスイスさん!』

お互いの決め技の高エネルギー玉がぶつかると思ったが仮面ライダーディエンドのエネルギー玉は当たる寸前割れて魔進チエイサーに当たった。仮面ライダーディエンドも魔進チエイサーのエネルギー玉に当たった。

はたして勝者は!?

第7話

《森／魔進チエイサー側》

ブレイクガンナー

〔チューン・チエイサートリプル〕

ディエンドドライブ

〔アタックライド・ボム！ファイナルアタックライド！デイー！デイー！デイー！デイー！エン
ド！〕

魔進チエイサー

「これで決める」

ズドオオオオオオオン！

仮面ライダーディエンド

「どっちが勝つかな？」

ズドオオオオオオオン！

グニャアアアアア！

魔進チエイサー

「何!? 割れただと!」

ドオオオオン

仮面ライダーディエンド

「グアアアアア!」

ズドドオオオオオオン!

魔進チエイサー

「グオオオオオオ!」

鬼のお姫様

「門矢様!」

緑人間達

『チエイスイスさん!』

《森／オーガ側》

忍オーガ

「なんて戦いだ．．．」

侍オーガ

「どっちが勝ったんだ？」

《森／魔進チエイサー側》

ゴゴゴゴゴ！

チエイス

「……………」

門矢 士

「……………」

お互い相撃ちになり変身が解けた。

緑人間1

「お互い立ったまま……………」

緑人間2

「ひ、引き分けっす……………ね」

門矢 士

「さ、流星は仮面ライダードライブと共に戦った奴だな」

チエイス

「お、お前もな……」

???

「チエイス!？」

門矢 士

「?」

チエイス

「//リ、リムル//……」

士達の前に変わった仮面を被っている水色の髪の間人?が現れた。

リムル

「大丈夫か!？」

チエイス

「だ、大丈夫だ……」

鬼のお姫様

「門矢様ご無事ですか!？」

門矢 士

「無事に見える……?」

士とチェイスはボロボロであつた。
鬼のお姫様

「すみません……」

門矢 士

「ちよつと待つてろ」

「ダイエンドドライバー」

「アタックライド・ヒーリング！」

ドウン！

門矢 士

「よし、治つた。チェイス動くなよ？」

ドウン！

チェイス

「グウ！」

リムル

「チェイス!!」

チェイス

「!?!治つた」

リムル

「よかった……で、お前ら何者だ？」

門矢 士

「その前にチェイスアンタの『マツハドライバー』だ。受け取りな」

ポイ

パシ

チェイス

「一応感謝はするがベルトとシフトカーとバイラルコアを届けろと誰に頼まれた？」

門矢 士

「ジジ神に頼まれた」

チェイス

「ジジ神？」

門矢 士

「俺をこの世界に転生させたジジ神だ。アンタは『流れ者』だって言ってたけどね」

チェイス

「転生とどう違うんだ？」

門矢 士

「アンタ死んだ後、機械生命体の粒子がこの世界に流れたから流れ者だつてさ」

チエイス

「成る程」

リムル

「お〜いそろそろいいか？」

門矢 士

「そう言えばこのチビと緑人間軍団は何だ？」

リムル

「チビって俺の事……？」

緑人間 1

「緑人間って……」

リムル

「ゴホン、俺の名は『リムル・テンペスト』だ」

門矢 士

「変わった名前だな……俺は人間の門矢 士だ」パシヤ

リムル

「え、門矢 士!？」

門矢 士

「何驚いている？」パシャ

リムル

「い、いや、べ、別に……」

門矢 士

「(こいつもしかして……)で、転生者だ」

リムル

「!？」

女オーガ

「転生者？」

老人オーガ

「ウム、詳しく教えてくれぬか若者よ後、次いでに『斬月殿』の事についても」

門矢 士

「ま、いいだろうこの門矢 士の体は俺の本来の体じゃない特典でこの門矢 士の身体を手に入れた。まあ、本来の俺の体は……余り言いたくない(ズーン)」

侍オーガ

「そ、そうか……」

老人オーガ

「それで斬月殿のは門矢殿が召喚したもののなか？」

門矢 士

「その通りだ。このディエンドドライバーは14の世界にいる仮面ライダーを呼び出せるさっきの斬月さんも14の世界から呼び出した」

老人オーガ

「では、何故あの時消えたのじゃ？」

門矢 士

「ディエンドの決め技ファイナルアタックライドは強制的にカードに吸い込まれるだから斬月さんは消えたんだ」

老人オーガ

「そうかももう少し相手をしてほしかったの……」

門矢 士

「そーいやおチビの後ろにいる緑人間は何だ？」パシヤ

リムル

「いや、チビじゃなくリムルだつての！」

門矢 士

「で、緑人間は何だお姫様？」パシヤ

リムル

「無視かよ!？」

鬼のお姫様

「えくとアレは、ゴブリンの進化したホブゴブリン」です」

門矢 士

「へえ」パシヤ

リムル

「反応薄いな……」

門矢 士

「で、このチビとツノ犬は？」パシヤ

鬼のお姫様

「え？この方は門矢様と同じ人間では？」

門矢 士

「違うなこいつの今の姿は仮の姿だそれに……何だか俺と同じ転生者のような」

鬼のお姫様

「え？」

門矢 士

「だってただの人間だったら俺がディエンドの姿に驚きはしないだろ？」

リムル

「お前気付いていたのか？」

門矢 士

「途中からな。で、このツノ犬は何だ？」

角犬

「犬ではない狼だ！」

大きな犬が吠えていた。

門矢 士

「はいはい、犬君ギャンギャン吠えてたら犬と言われても仕方ないだろ？」パシヤ

鬼のお姫様

「え、えくと『牙狼族』ですね。あの姿はおそらく進化したのでしょう」

門矢 士

「ふくん」パシヤ

ゴツイオーガ

「さつきから何やっているんだべ？」

門矢 士

「写真撮ってる」

女オーガ

「写真？」

門矢 士

「だいたいこんな感じだ」

士は写真を見せた。

侍オーガ

「こ、これは妹!？」

鬼のお姫様

「コレ、昨日門矢様と一緒にいた時ですね」

門矢 士

「そ、現像させた」

リムル

「それにしても建物現代もののような・・・」

門矢 士

「何で建物現代物って分かるんだ？」

リムル

「えっ、き、気のせいだ……」

門矢 士

「てか、何だよこの変な仮面は」

バツ

士はリムルの仮面を取った。

リムル

「あつ、返せよ！」

ピョンピョン！

侍オーガ

「すまないがその仮面見せてくれないか？」

門矢 士

「いいよ。ほらよ」

ポイ

パシ

侍オーガ

「……」

リムル

「お、おい、壊すなよ形見の仮面なんだ」

侍オーガ

「ジイ、妹よこの仮面……」

鬼のお姫様

「似ていませんね」

老人オーガ

「確かに」

門矢 士

「何の話？」

鬼のお姫様

「実は私達の里を襲った者に似ていたので……」

門矢 士

「もし、仇だったら襲ってたんだな」

侍オーガ

「そうだ」

門矢 士

「よかったな先に確認とれて」

リムル

「あ、ああ、で、仮面返して」

侍オーガ

「ああ」

リムル

「そ、それでお前からこれからどうすんだ？」

門矢 士

「俺はお姫様とシフトカーとバイラルコア、ベルトにバイク届けに来たからこの辺うろ
ついとくよ」

鬼のお姫様

「えっ!？」

門矢 士

「じゃあな」

パチン

シューウウウウ

リムル

「な!? 光写真館!？」

門矢 士

「やっぱりお前俺と同じだったか」

デネブ

「士くマシンディケイダーの修理終わったよ」

リムル

「んなあ! デネブ!？」

門矢 士

「お、終わったかこっちの用事も終わったからこの辺バイク走らせるか」

鬼のお姫様

「あ、あの門矢様私達と一緒に行動しませんか?」

門矢 士

「え、いや」

鬼のお姫様

「お願い……します(ウルウル)」

門矢 士

「ワカリマシタ……」

リムル

「(弱!?ま、まあ、気持ちは分からなくもないけど)」
という訳で士は、リムル達と行動する事にした。
ちよつとオマケ

門矢 士

「で、チビお前の本来の姿は何だ?」

リムル

「ああ、これだ」シユルン!

門矢 士

「何だこの水玉?」

鬼のお姫様

「“スライム”です」

第8話

〈夜〉

《森／リムルの村》

ワイワイ

ガヤガヤ

士達はリムルの村に歓迎され侍オーガ達は出された食べ物を食べ士は……

鬼のお姫様

「士様コレ美味しいです！」

門矢 士

「よかつたな」カシヤ

お姫様に連れ廻されながら写真を撮っていた。

チエイス

「これで俺は再び仮面ライダーとして戦える」

女ホブゴブリン

「良かったですねチエイスさん」

チエイス

「ありがとう、リリナ」

デネブ

「さあさあ！どんどん食べてね」

子供ホブゴブリン

『ハーイ♪』

リムル

「うまあい♪」

ゴブリン達

『ヤッタアアアアア！』

門矢 士

「何だ？」

鬼のお姫様

「スライムは本来味覚等は無いですけど……」

門矢 士

「ふくん……」

ガチャ

テディ

「士どうしてディエンドドライバーを出した？」

門矢 士

「ちよつと試すだけだ」

士はリムルに近付いた。

門矢 士

「おい、人間モドキ」

リムル

「人間モドキって」

門矢 士

「動くなよ」

ガチャ

リムル

「イツ!?!」

ホブゴブリン達

『!?!』

ディエンドドライバー

「アタックライド・『バンデッド』！」

ドウン！

リムル

「グワ！」

ホブゴブリナー

「リムル様?!」

チエイス

「貴様、リムルに何をした！」

門矢 士

「慌てるな」

ブウウウン！

カア

士はバンデッドカードを使ってリムルを撃ち数十枚のカードが現れた。

門矢 士

「お前すごい数の能力者だな何だよ『イフリート』やらこの『シズ』って人間まである
じ」

リムル

「シズさん!？」

士が話してる途中でリムルが割り込んで来た。

門矢 士

「訳ありのようだな……」

チエイス

「お前いったい何をした？」

門矢 士

「このバンデッドカードはデイエンドさん限定で相手の能力を奪う事が可能なカードだ。まあ、奪われた奴の能力は普通に使えるよ。まさか数十枚のカードが現れたのは以外だったけどな」

リムル

「で、シズさんを斬月のように出せるのか!？」

門矢 士

「事情はよく分からんが多分出来るぞ」

リムル

「た、頼むシズさんを……」

門矢 士

「分かってる皆まで言うな」

「デイエンドドライバー」

「〃ビューマンライド・シズ〃」

「ドウン！」

「シズ？」

「キャ!?!あいたたたいきなり何?」

「リムル」

「シズさん……」

「シズ」

「え?私?」

「リムル」

「お、俺だよ!」

「ポヨン」

「シズ」

「え!?!スライム君!?!私確か死んだ筈じゃあ?」

「門矢 士」

「事情は知らんがアンタは俺が喚んだ」

シズ

「え？誰？」

門矢 士

「門矢 士そこにいる人間モドキと同じ転生者だ」

リムル

「人間モドキ言うなよ」

シズ

「初めまして私は『井沢静江（いざわしずえ）』よろしくね」

ガシ

士とシズは『握手』をした。

シズ

「あれ？私生き返ったの？」

門矢 士

「いや、アンタは死んでるよ」

シズ

「え、でも私君を触れたよ？」

門矢 士

「いや、だって頭の上触ってみろよ……」

シズ

「え? うん」

コン

シズ

「……」

士に言われシズは頭の上に輪っかがありそれにあたった。

門矢 士、リムル

「……」

リムル

「おい、生き返ったんじゃないのか?」

門矢 士

「誰が生き返えったといった? 喚んだと言っただけだまあ、この“カード”使えばいいんじゃない?」

リムル

「何だこのカード? シズさんの隣に透明がある土何だこのカード」

門矢 士

「デイケイド見てたら分かるだろ。『ファイナル・フォームライド』のカードだよ」

チエイス

「おい、手紙だ」

門矢 士

「ん？ジジイからだ」

『シズを生き返させるなら。『ジョブチェンジ』カードを使えどんな姿になるかはお主しだいじゃ』

門矢 士

「『ジョブチェンジ』カード？」

リムル

「そうか死人から職業をあたえればシズさんが生き返るんだな士早速やってくれ！」

門矢 士

「シズはどんな姿になりたいんだ？」

シズ

「君に任せるよ」

チエイス

「おい、まだ続きがあるぞ」

門矢 士

「何?」

『シズをジョブチェンジしたいならそのディエンドドライバーでは限界があるじゃから今からディエンドドライバーをバージョンアップさせる』

門矢 士

「バージョンアップってどう」

「パアアアアア!」

『その名も “ネオディエンドドライバー” じゃ』

門矢 士

「うわ! ディエンドドライバーが変わった!?!」

リムル

「黒から水色になったな」

『そのネオディエンドドライバーじゃったらジョブチェンジしやすいぞそれと光写真館に地下を作ったチエイイスには馴染みがあるし懐かしい奴がおるから後で見に来るがよいじゃあの』

ボン!

門矢 士

「あ、あのクソジジイ……いつか会ったら殺してやる（ブスブス）」

シズ

「だ、大丈夫？」

門矢 士

「大丈夫だ……さっさとやるぞ！」

シズ

「は、はい！」

ネオディエンドドライバー

〔ジヨブチェンジ・シズ〕

ダウン！

シズ

「あふん」

リムル

「どんな姿になるんだ？」

第9話

《リムルの村／広場》

ネオデイエンドドライバー

〔ジヨブチェンジ・シズ〕

ドウン！

シズ

「あふん」

リムル

「どんな姿になるんだ？」

パアアアアア！

シズ？

「……？これが私？」

士がジヨブチェンジカードを使ったシズの姿は……

リムル

「修道院!？」

門矢 士

「ただの修道院じゃないぞ」

リムル

「じゃなんだよ」

門矢 士

「〃それのおとしもの〃 エンジェロイド〃 にしてみた」

リムル

「え、エンジェロイドって確か〃アポロン〃とか色々ヤバイあの……」

門矢 士

「その通り因みに全エンジェロイドの能力を入れたこれで陸、空、海は無敵だ」

リムル

「やりすぎだろうが!」

門矢 士

「そうか? お前よりかはマシだろ?」

リムル

「う!？」

門矢 士

「まあ、他はとにかく「アポロン」のみは封印させた理由は言わんでも分かるだろう？」
リムル

「あ、ああ……」

シズ

「あの、それのおとしものって何かな？」

門矢 士

「ああ、あのジ」

ボゴン！

門矢 士

「ブフォ!!」

士の頭の上から漫画が直撃した。

鬼のお姫様

「士様!?!」

『ジジイはヤメイ!クソガキ!それのおとしもの全20巻と平成仮面ライダーDVD
じゃ!2度とジジイと言うなクソガキ!』

ボゴオン!

門矢 士

「あ、あのクソジジイ……マジで殺してやる（ゲフ+ピクピク）
鬼のお姫様

「士様大丈夫ですか!？」

門矢 士

「大丈夫……ではない」

ネオディエンドドライブ

「アタックライド・ヒーリング」

ドウ!

門矢 士

「よし!次は写真館だ!行くぞ!人間モドキ!

リムル

「オウ!って人間モドキ言うなよ……」

パチン

オーロラから写真館が出て来た

ホブゴブリン達

『ワー!何だあれ!?!』

門矢 士

「よし、なんかクソジジイが作った地下チエイスに馴染みがある場所みたいだけどどんな場所だろ?」

チエイス

「俺の馴染みの場所? 地下? まさか……」

シズ

「私も行ってみよ」

鬼のお姫様

「土様私も行きます」

侍オーガ

「ま、まて、妹!」

老人オーガ

「ワシも行くか」

《《光写真館／階段前》》

士達は光写真館に入り地下は無い筈が地下につづく階段ができていた。

門矢 士

「本当に地下ができてる」

チエイス

「行くぞ門矢」

門矢 士

「大丈夫なのか？」

チエイス

「大丈夫だ俺の馴染みがある場所はその場所しかない」

士達は地下に向かった。

《光写真館／地下》

侍オーガ

「扉？皆さが」

チエイス

「必要ない」

ガ―

チエイスは地下の扉を開けた。

侍オーガ

「お、おい無警戒すぎるぞ！」

門矢 士

「大丈夫だろう？チエイスの馴染みの場所のようだし」

老人オーガ

「門矢殿の言葉に一理アリじやな」

侍オーガ

「爺お前まで……」

鬼のお姫様

「お兄様士様達を信じて下さい」

士達は地下の部屋に入った。

《《光写真館／＼／＼》》

???

「だ、誰だ君達は!？」

士達は地下の部屋に入ったら謎のベルトが喋りはじめた。

チエイス

「久しぶりだな……”クリーム”」

クリーム

「チエ、チエイス!? 君は死んだ筈じゃあ!?!」

チエイス

「落ちて着けクリーム色々訳があるからちやんと聞いてほしい」

クリーム

「わ、分かった」

チエイスはクリームに事情を話した。

侍オーガ

「こ、腰巻きが喋った」

門矢 士

「へへ喋るんだあのベルト」

シズ

「驚かないんだね……」

門矢 士

「似たようなベルトがあつたんだよ」

リムル

「そーいやあつたな “仮面ライダーキバ” とかな」

門矢 士

「そーそー。それよりここどこだ？」

士達がいた場所は変わった機材がある部屋であつた。

チエイス

「ここは “ドライブピット” だ俺達のマシンを修理するには丁度いいだろ」

門矢 士

「話終わったのか？」

チエイス

「ああ、紹介しようこいつの名前はクリム」

クリム

「初めまして “クリムスタインベルト” だよろしく頼む」

門矢 士

「クリムスタインベルト？」

チエイス

「それはクリームが人間だった頃の名前だ」

門矢 士

「どういう事？」

チェイスはクリームの事を説明した。

詳しくは仮面ライダードライブを見てね。

門矢 士

「成る程だいたいわかった」

クリーム

「時にはベルトさんと呼んでも構わないからね♪」

リムル

「そのまんまだな・・・」

クリーム

「君達の事はチェイスから聞いた特にリムル君チェイスが世話になったようだね」

リムル

「いや、まあ、こつちも色々チェイスには世話になりました」

門矢 士

「そーいや姫兄たちはこれからどうすんだ？」

侍オーガ

「姫兄って……まあ、オーク達にオーガの里を壊滅された力を蓄え再度挑むまで」

門矢 士、チェイス、リムル

「「どうやって？」」

侍オーガ

「……」

門矢 士

「無計画か……お姫様も苦労するな」

鬼のお姫様

「アハハ……」

リムル

「提案なんだけどさお前達全員俺の部下になる気はあるか？」

侍オーガ

「は？」

鬼のお姫様

「え？」

リムル

「ま、俺が支払うのは衣食住の保障のみだけだな。拠点があった方がいいだろ？」
老人オーガ

「フム、悪くわないがよろしいのかな貴方を巻き込んでしまいますが」
リムル

「まあ、別にお前達の為だけって訳じゃない。数千のしかも武装したオークが攻めてきたんだって？そりやどう考えても異常事態だこの町だって決して安全とは言えないだろうな」

門矢 士

「成る程戦力増強かまあ、決めるのは姫兄たち何だからちやんと決めろよ？」

侍オーガ

「……」

老人オーガ

「悪い話ではないが若様が決めてくだされワシは若様について行く他のもの達も同じ気持ちじゃろ」

門矢 士

「まあ、じっくり考えておけよ？さうして俺は写真の現像させてくるか」

クリム

「私は平成仮面ライダーのDVDをみるかな」

チエイス

「クリム俺も一緒にみてもいいか？」

クリム

「構わないよ一緒に見よう」

門矢 士

「そういやその車って仮面ライダードライブの愛車 “トライドロン” か？」

チエイス

「ああ、トライドロンはドライブの愛車だ」

門矢 士

「へへ車に乗る平成仮面ライダーはドライブが初めてだな」

クリム

「そうなのかい？」

門矢 士

「ああ、一応 “昭和仮面ライダーBLACK RX” が “トライドロン” って車に乗っていた」

クリム

「どんな仮面ライダーだったんだい？」

シユウウウウウ!

『仮面ライダーBLACKRXのDVDじゃ』

門矢 士

「用意がいいな詳しくはこれで見な」

クリム

「ありがとう」

ワイワイ

侍オーガ

「……俺がもっと強ければ（ギリ）」

老人オーガ

「若……」

リムル

「そーいや士お前どうすんだ？」

門矢 士

「んーそうだなちよつとこの森全体を見て回りたいたいな猪人間共の偵察隊がいるかもしれないし」

リムル

「そっか」

シズ

「士君私を生き返らせてくれてありがとう」

門矢 士

「どういたしまして。リムルに空の飛び方とか教えてもらいなよ？」

シズ

「うん。そうするよ」

第10話

〈朝〉

《リムルの村／出口前》

鬼のお姫様

「あ、あの本当に行ってしまうのですか士様（ウルウル）」

門矢 士

「ああ、この村には、チェイスとベルトさんがいるからな猪人間共の事がだいたいわかったら戻ってくるから……潤んだ状態で俺を見ないで下さい（メソラシ）」

昨日士はオーク達の行動と周辺の調査をするとリムル達に告げた。

リムル

「ま、まあ、デイケイドとデイエンドドライバーを持っているが気よ付けろよ？」

門矢 士

「ああ、じゃあいつてくる」

鬼のお姫様

「士様、気をつけてください」

門矢 士

「ああ．．．．．さて、初のマシンデイクイダー乗りだ」

リムル

「そうなのか？」

門矢 士

「あくちよつと色々あつてな．．．．」

鬼のお姫様

「．．．．」

詳しくは第3話を読んでね。

門矢 士

「じゃあ、いつてくる」

ブオン!

ブオオオオオン!

リムル

「行つたな．．．．」

鬼のお姫様

「はい．．．．」

リムル

「アイツはなら大丈夫だ。何かあったら使い魔でも出して何とかするだろ？」

クリム

「その通り彼なら大丈夫だよ」

リムル

「クリ……って何ですかその格好!？」

クリムはシフトカーを合体させ言わばベルトさんロボことクリムロボでリムル達に話かけた。

クリムロボ

「手足が無くて不便だったのでシフトカー達を合体させてみたのだがどうだろうか？」

リムル

「ん〜カツコイインだけど『プラモンスター』の合体の方が……」

クリムロボ

「ガーン……チエ、チエイス君はどうだろうか？」

チエイス

「俺も……プラモンスターがいい」

クリムロボ

「ガンーン！ウワーン！チェイス信じてたのにヒドーイ（ビューン）」

クリムロボは泣きながらさった。

リムル

「はや．．．にしてもチェイスお前少し気を使えよ」

チェイス

「俺は事実を言ったただけだ．．．」

鬼のお姫様

「士様．．．」

〈あれから日が立ち〉

《リムルの村／出口前》

士が偵察に向かってから何日も帰って来なかった。

鬼のお姫様？

「士様．．．（ドヨーン）」

リムル

「お、おい『シユナ』士から連絡ないからって落ち込みすぎだ．．．ろ？」

シユナ

「リムル様……でも何日も連絡が無いなんて……(ドヨーン)」

チエイス

「リムル何とかしろ(ボソ)」

リムル

「無理だつて(ボソ)」

デネブ

「まあまあ、シユナちゃんそんなに落ち込んでいる姿を見たら士に引かれるよ？」

テディ

「そうだとシユナ今『ソウエイ』が偵察にいつている見つけたら知らせてくれるだろ」

シユナ

「そ、そうですよね(ペア)」

ゴブタ

「でも、今頃士さんは女の人と一緒になつてるかもしれないっすね〜♪」

シユナ

「え……そうですよね私なんてツノがはえてるだけですし今は『鬼人』になりましたが士様は人間ですし士様と私なんかとは釣り合いませんよね……(ドズーン)」

全員（チエイス、テディ、デネブ以外）

『このバカが折角機嫌が良くなったのにまた落ち込んだじゃないか！』

コブタ

「ギャアアアア!!」ドガドガドガ

士が帰ってこないでシユナは落ち込んでいたがリムル達に励ましてもらったがコブタの一言のせいでシユナは再び落ち込んでしまった。コブタは全員に袋叩きされた。

シユナ

「私なんて……（ブツブツ）」

デネブ

「だ、大丈夫だよシユナちゃん！士はそんな女たらしじゃないからね（アセアセ）」

テディ

「その通りだアイツは写真を撮る方が好きなんだ（アセアセ）」

デネブとテディは、シユナを励ますのに必死であった。

老人オーガ？

「コブタ余計な事を言ってくれたの（ゴゴゴゴ！）」

侍オーガ？

「万死に値するぞ？（ゴゴゴゴ！）」

女オーガ？

「その首を斬るぞ？（ゴゴゴゴ！）」

コブタ

「ヒイヒイヒイ！ “ハクロウ”さん！ “ベニマル”さん！ “シオン”さん！ すいません
したー！（土下座）」

クリム

「チエイス君も行くのかい？」

チエイス

「ああ、俺を助けてくれたリムル達の為に戦いたい」

クリム

「そうか……だが無事に帰ってくるんだぞチエイスまた君が死んだらこの村に住んで
いるゴブリン達は悲しむぞ」

チエイス

「分かってている。クリム留守を頼む。デネブとテデイも残るがこの村を守ってくれ俺と
士が帰ってくる場所を……」

クリム

「分かった」

リムル

「それじゃあ行ってくる」

シズ

「リムル君ー気よ付けてねー！」

リムル達はオークの軍勢と戦うための準備が終えリムル達はオーク軍討伐に向かった。

門矢 士

「はあ、はあ、はあ、まさかこの世界に彼奴等がいたなんて???

「士君大丈夫かい!？」

門矢 士

「何とか大丈夫ですよ『木場』さん……」

第11話

《森／??？》

門矢 士

「はあ、はあ、はあ、まさかこの世界に彼奴等がいたなんて」

??？

「士君大丈夫かい!？」

門矢 士

「何とか大丈夫ですよ。『木場』さん……」

ある森の場所です。士はボロボロでありそんな士に声を掛けたら男がいた。その男の名は『木場 勇治』。

この男との出逢いは士が偵察に出た少し前に逆上る。

《森／獣人砦前》

この兎獣人のいる砦にオークの集団に襲われていたが士が参戦し何とか被害を最小

限に抑えられた。

士は兎獣人達と仲良くなり一日休んだ。

女兎人間

「あの、このカメラありがとうございます」

士は、ある女の兎獣人にカメラに興味を持ち士はポラロイドカメラを女兎獣人にあげた。

門矢 士

「気にするな “ウサギちゃん” じゃあ、猪人間軍団に気よ付けろよ？」

女兎人間

「はい。士先生も気よ付けてください」

門矢 士

「ああ、再会したらお前が撮った写真見せてくれよ？」

女兎人間

「はい！絶対見せます！」

門矢 士

「じゃあな兎ちゃん」

女兎人間

「はい」

ブオン!

ブオオオオオン!

士は、兎獸人の砦をさったしばらくして。

ガタガタアーン!

門矢 士

「で〜!? な、何だ?」

《湿地帯》

門矢 士

「いつの間にか森の外に出てたのか地面は湿気ってるし結構滑りやすくなってるなマシン
ンディケイダーでもうまく行けるかどうか・・・しようがない」

ガシャン

ネオディケイドドライバー

「アタックライド」

ガチャン!

ネオディケイドドライバー

「〃トライチエイサー〃」

ガチャガチャガチャン！

ブオオオオオン！

門矢 士

「湿地帯を駆け巡るにはマウンテンバイク系だな」

士はネオディケイドドライバーを装着しバイクカードを入れマシンディケイダーは

〃仮面ライダークウガのバイクトライチエイサー〃に変形した。

門矢 士

「〃ビート〃にするか迷ったけどやっぱりトライチエイサーだね」

ブオン！

ブオオオオオン！

門矢 士

「楽チン♪」

《湿地帯／砦前》

ブオオオオオン!

ドドドン!

キキイ!

士の前に数本の槍が降ってきた。

門矢 士

「今度は何だ?」

トカゲ人間1

「貴様何者だ」

門矢 士

「お前らこそ何者だトカゲ人間か? トカゲロンか?」

トカゲ人間2

「貴様我らリザードマンを侮辱するのか!」

門矢 士

「侮辱した訳じゃないけど俺の行く道を邪魔するなら」

ガチャ

リザードマン達

『!』

門矢 士

「容赦しないぞ?」

士はネオディエンドドライバーを取り出した。

リザードマン3

「何だそれは? そんな物で我らに敵うとも思っているのか?」

ガチャン!

ネオディエンドドライバー

「カメンライド!」

門矢 士

「試してみるか?」

ネオディエンドドライバー

「// カリス! // サソード! //」

ドドウ!

仮面ライダーカリス

「.....」

仮面ライダーサソード

「.....」

門矢 士

「お二人共こいつらの相手お願いします」

仮面ライダーカリス

「分かった」

仮面ライダーサソード

「俺に任せろ」

士は、ネオデイエンドドライバーで仮面ライダーブレイドの世界の仮面ライダーカリスと仮面ライダーサソードを呼び出した。

仮面ライダーサソード

「クロックアップ！」

ターン！

サソードベルト

「クロック・アップ！」

ビュン！

リザードマン4

「き、消え……」

ドカ！

リザードマン1

「グワー！」

ドカ！

リザードマン2

「グオツ!?!」

リザードマン3

「いつ、一体な……」

ドガア！

リザードマン3

「ギャア！」

門矢 士

「トカゲモドキがサソードさんの“超高速”を目で追えるわけないだろ」

仮面ライダーサソードが腰にあるスイッチを押して超高速してリザードマン達を斬り付けた。

リザードマン4

「デアリアー！」

カリスアロー

〔チョップ!〕

仮面ライダーカリス

「ハア!」

ドガア!

リザードマン4

「グフウ!?!」

リザードマン4は仮面ライダーカリスに斬りかかろうとしたが、♥3のラウズカード・チョップをカリスアローでスキャンさせリザードマン4を殴った。

門矢 士

「カリスさんフィニッシュお願いします……」

カリスアロー

〔フroot!〕

カリスアロー

〔ドリル!〕

カリスアロー

〔トルネード!〕

カリスアロー

「『スピニングダンス!』」

ゴオオオオオ!

リザードマン4

「ヒッ!」

仮面ライダーカリス

「デヤアアアアア!」

???

「ムン!」

ガキイイイイ!

門矢 士

「何……カリスさんのスピニングダンスを受け止めた……だと」

士がフィンツシュを言った後仮面ライダーカリスは三枚のラウズカードをスキャンさせコンボの必殺技スピニングダンスでリザードマン4を仕止めようとしたが何者かがスピニングダンスを受け止めてしまった。

門矢 士

「!? 銀の体に馬の顔……まさか」

銀の馬の顔

「・・・・・・」

門矢 士

「『ホース・・・・オルフェノク』」

第12話

《リザードマンの砦》

門矢 士

「カリスさんフィニッシュお願いします……」

カリスアロー

〔“フロート!”〕

カリスアロー

〔“ドリル!”〕

カリスアロー

〔“トルネード!”〕

カリスアロー

〔“スピニングダンス!”〕

ゴオオオオオ!

リザードマン4

「ヒッ!?!」

仮面ライダーカリス

「デヤアアアアア！」

???

「ムン！」

ガキイイイイイ！

門矢 士

「何．．．カリスさんのスピニングダンスを受け止めた．．．だと」

門矢 士

「!? 銀の体に馬の顔．．．まさか」

銀の馬の顔

「．．．．．」

門矢 士

「〃ホース．．．オルフェノク〃」

ホースオルフェノク

「大丈夫？」

リザードマン4

「は、はい。ありがとうございます ユウジ殿」

門矢 士

「ユウジ？」

ホースオルフェノク

「何故こんな事を？」

門矢 士

「……」アゼン

ホースオルフェノク

「どうしたの？」

門矢 士

「あ、アンタ名前聞いてもいいか？因みに俺は人間門矢 士」

ホースオルフェノク

「……」木場 勇治

門矢 士

「乾 巧」って人知ってる？」

ホースオルフェノク

「彼を知ってるの?」

門矢 士

「……(ヤベ、本物の木場 勇治さんだ) まあ、知ってる。それと何でこんな事をしたかっていきなり槍投げてきたのはそっちだ」

ホースオルフェノク

「そうなの?」

リザードマン1

「そ、それは……」

門矢 士

「な、本当だったでしょ?」

ホースオルフェノク

「ゴメン僕の仲間が迷惑かけちゃって」

門矢 士

「まあ、木場さんの謝罪で許すが悪いけど木場さん俺の相手してください」

ホースオルフェノク

「どうして?」

門矢 士

「見てみたいんです巧さんと共に戦った力を見てみたいんですだからお相手お願いします」

ホースオルフェノク

「分かった」

門矢 士

「ヨシ！じゃあお願いします」

ガチャン！

ブウウウウウン！

門矢 士

「今回はネオディケイドドライバーだ」

ガチャン

ネオディケイドドライバー

「カメンライド！」

ガチャン

ネオディケイドドライバー

「ディケイド！」

ガチャ！

士は、仮面ライダーディケイドに変身しライドブッカー・ソードを構えた。

仮面ライダーディケイド

「仮面ライダーディケイド。じゃあ、お願いします」

ホースオルフェノク

「来い！」

リザードマン2

「ク・・・」

仮面ライダーカリス

「動くな」

仮面ライダーサソード

「一騎打ちの勝負の邪魔をする者は斬る」

ガキイイイイイン!

仮面ライダーディケイド

「チッ！」

ブウウウウウン!

ガチャン

ネオディケイドドライバー

〔アタックライド!〕

ガチャン!

ネオディケイドドライバー

〔ブラスト!〕

ズドドド!

ガガガガガ!

仮面ライダーディケイド

〔厄介な盾だな〕

ディケイドはライドブッカーをガンに変えブラストで撃つたがホースオルフェノクが盾を出しブラストを防いだ。

ホースオルフェノク

〔今度はこっちの番だ!〕

仮面ライダーディケイド

〔イツ!?!〕

ガチャン!

ガキイン！

ホースオルフェノク

「いい反応だ」

ギチギチ

デイケイドはホースオルフェノクが剣を出しデイケイドもライドブツカーをソードに変えつばぜり合いになった。

仮面ライダーデイケイド

「どうも……」

ネオデイケイドドライブ

「アタックライド」

ガチャン！

ネオデイケイドドライブ

「スラッシュ！」

ホースオルフェノク

「!?」

ガキイ！ガキイ！ガキイイイイイン！

仮面ライダーデイケイド

「普通斬り合い出来るか!？」

ホースオルフェノク

「やろうと思えば出来る」

ディケイドはスラッシュユカードを使いホースオルフェノクを斬ろうとしたがホースオルフェノクは剣で斬り合いをしディケイドのスラッシュも防いでしまった。

仮面ライダーディケイド

「さ、流石だ説得力があるな……じゃあ、アンタにとって懐かしの仮面ライダーになってやるよ」

ホースオルフェノク

「?」

ブウウウウウン!

仮面ライダーディケイド

「『ファイズ』さんお願いします」

ネオディケイドドライバー

「カメンライド!」

ネオディケイドドライバー

「『ファイズ!』コンプリート」

「デイケイドはカメンライドカードを使いデイケイドは4番目の仮面ライダーファイズとなった。以降はD∥ファイズです。」

D∥ファイズ

「……」

ホースオルフェノク

「ファイズに……変わった?」

D∥ファイズ

「デイケイドさんは14の仮面ライダーに姿を変えられるんですよファイズさんもその一人です」

ホースオルフェノク

「そっか……乾君かと思っちゃったよ」

D∥ファイズ

「それは残念でした」

ブウン!

D∥ファイズ

「ね!」

ホースオルフェノク

「!?」

ガキイイイイイン!

DⅡファイズライドブッカーソードでホースオルフェノクを斬ろうとしたがホースオルフェノクの剣で防いだ。

DⅡファイズ

「流石ですがそろそろ決めさせてもらいますよ」

バツ!

ブウウウウウン!

ガチャン!

ネオディケイドドライバー

〔アタックライド〕

ガチャン!

ネオディケイドドライバー

〔ファイズポインター〕

ガチャン!

ホースオルフェノク

「決める気だな」

ネオデイクイドドライバー

〔ファイナルアタックライド〕

ガチャン！

ネオデイクイドドライバー

〔ファア！ファア！ファア！ファイズ！〕

ネオデイクイドドライバー

〔エクシードチャージ！〕

DⅡファイズ

「行きますー！」

バシユ！

ホースオルフェノク

「フン！」

キイイイイイン！

DⅡファイズ

「ハア！デリアアアアアア！」

ギャルルル！

ホースオルフェノク

「グググ……デリアアア！」

バキイ！

DⅡファイズ

「グワ！と見せかけて」

ブウウウウン！

ガチャン！

ネオデイクイドドライバ―

〔アタックライド〕

ガチャン！

ネオデイクイドドライバ―

〔ファイズショット〕

DⅡファイズ

「もう一度」

ガチャン！

ネオデイクイドドライバ―

〔ファイナルアタックライド〕

ガチャン！

ネオデイクイドドライバー

〔ファア！ファア！ファア！ファイズ！〕

ネオデイクイドドライバー

〔エクシードチャージ！〕

DⅡファイズ

〔くらえ！〕

ホースオルフェノク

〔しまっ!?!〕

DⅡファイズ

〔ウオリアアアアアア！〕

ホースオルフェノク

〔くっ！〕

バキイイイイン！

DⅡファイズ

〔俺の勝ちですね．．．．．〕

ホースオルフェノク

〔まさか剣と盾を壊されるとは．．．．．〕

DⅡファイズはつばぜり合いし一旦距離を取りファイズポインターを出しファイズ用のファイズマーク金色のカードを入れホースオルフェノクにクリムゾンスマッシュをしたがホースオルフェノクはDⅡファイズを上空に弾いたが弾いたと同時に剣が折れた。

上空に弾かれたDⅡファイズは今度はファイズショットを出しもう一度ファイナルアタックカードを入れグランインパクトでホースオルフェノクの盾を壊した。

DⅡファイズ

「手加減してくれて感謝しますよ」

ホースオルフェノク

「気付いてたんだね」

DⅡファイズ

「だって、『疾走態』なっていないじゃないですか」

ホースオルフェノク

「まあ、君は悪い人じゃなさそうだったからね」

シユウウウウ

ガチャン

DⅡファイズとホースオルフェノクは変身を解いた。

門矢 士

「あ、本当に木場 勇治さんだ」

木場 勇治

「悪いけど彼等を解放してくれないかい？」

門矢 士

「あ、はい。カリスさんサソードさん」

仮面ライダーカリス

「いいだろう」

仮面ライダーサソード

「分かった」

仮面ライダーカリス

「では、また呼べ」

仮面ライダーサソード

「ではまたな」

シューウウウウ

カリスとサソードは士達の前から消えた。

木場 勇治

「ねえ、君の話し聞かせてくれないかな？」

門矢 士

「俺でよければ。あ、写真一枚いいですか？」

木場 勇治

「あ、カメラ持っていたんだお願いするよ」

パシヤ

門矢 士

「ありがとうございます♪彼奴等に自慢出来る♪」

木場 勇治

「なんだかよく分からないけどよかったね」

第13話

《リザードマンの砦内／木場の部屋》

木場 勇治

「ようするに土君は転生者何だね？」

門矢 士

「言うなれば憑依転生者です。本来の門矢 士さんの方が1000倍格好いい」

木場 勇治

「そうなんだ」

前回ホースオルフェノクと戦った門矢 士は木場 勇治に自分の事を話した。

門矢 士

「……で、木場さん俺からも聞いてもいいですか？」

木場 勇治

「何かな？」

門矢 士

「アンタどっちの世界の木場さん何だ？」

木場 勇治

「どういう意味だい？」

門矢 士

「アークオルフェノク」がいた世界の木場 勇治さんなのかそれとも「エラスモテリウムオルフェノク」なのか？」

木場 勇治

「……この二本のベルトを見れば分かる筈だよ」

ゴゴト

木場は黒と金のベルトを士の前に置いた。

門矢 士

「『カイザギア』と『オーガギア』って事は二つの記憶持っているんですか？」

木場 勇治

「うん……」

門矢 士

「……あくよく見たら二本共壊れてる無理もないか……カイザギアは『アークオルフェノク』に破壊されオーガギアは焼け焦げてるな」

木場 勇治

「これでいいんだ……これは乾君を裏切った罰だから……」

門矢 士

「この二つある奴に頼めば直せますが？」

木場 勇治

「いや、必要ないけど別の物を直してほしいんだけどいいかな？」

門矢 士

「何です？」

木場 勇治

「ついて来て」

《リザードマンの砦内／木場の部屋前》

ガチャ

女リザードマン

「木場殿？」

木場 勇治

「彼を『例の部屋』に連れて行きます」

女リザードマン

「だ、大丈夫何ですか？」

木場 勇治

「彼なら大丈夫だよ信用できる」

女リザードマン

「なら私も付いて行きます」

門矢 士

「俺は構いませんよ」

木場 勇治

「じゃあ、一緒に行こう」

女リザードマン

「ハッ」

門矢 士

「堅苦しいトカゲ（ボソツ）」

木場 勇治

「アハハ・・・」

《リザードマンの砦内／例の部屋の前》

門矢 士

「此処ですか？」

木場 勇治

「そうだよ」

ガチャ

《リザードマンの砦内／例の部屋》

門矢 士

「こゝ、これは……まさか」

例の部屋という場所にバラバラになった物や串刺しになった物があつた。

木場 勇治

「この二つは乾君と共に戦ってくれたマシン」

門矢 士

「この二つも木場さんと同じ」

木場 勇治

「うん．．．アークオルフェノクとエラスモテリウムオルフェノクに破壊された。オートバシンだよ」

門矢 士

「これはクリムさんでも無理だが．．．ジジイに頼むか」
シユウウウウウ

木場 勇治

「あ、オートバシンが．．．」

いきなりオーロラが現れオートバシンが消えた。

門矢 士

「安心してくださいジジイの場所に行っただけです」

木場 勇治

「そっか．．．」

門矢 士

「まあ、悪いようにはしないでしょ」

木場 勇治

「君の言葉信じるよ」

女リザードマン

「では、部屋にも」

門矢 士

「さて」

女リザードマン

「どうしかったですか？」

ガチャ

ズド

ザン！

士は、外からなにか殺意を感じ自分から扉を開けようとしたが外から扉が何者かの剣に付きそのまま真つ二つに扉を壊した。

???

「見つけたぞ……デイケイド、デイエンドのドライバーを持つもの」

門矢 士

「お前は……『ネガ電王』！」

第14話

《リザードマンの砦内／例の部屋》

ズド

バキイ!

???

「見つけたぞ……デイケイド、デイエンドのドライバーを持つもの」

門矢 士

「お前は……ネガ電王」!

木場 勇治

「士君、奴は?」

門矢 士

「奴はネガ電王。 仮面ライダー電王”さんと 仮面ライダーキバ”さんが倒した筈何
ですがね」

木場 勇治

「僕と同じ……」

門矢 士

「流れ者転生者……」

ネガ電王

「その通りだ門矢 士の体を持つ者よ」

門矢 士

「何だよ」

ネガ電王

「お前の持つネオデイケイドドライバー、ネオデイエンドドライバーこちらに渡しても
らおうか？」

門矢 士

「何故だ？」

ネガ電王

「お前が持っているネオデイケイドドライバーとネオデイエンドドライバーの力を使い
この世界を我が物に出来るのだ」

門矢 士

「成る程だいたい分かったディケイドさんは元々破壊者でディエンドさんは盗人だからほしいって訳だな」

ネガ電王

「その通りだ。さあ、ドライバーを寄越せ」

木場 勇治

「土君……」

門矢 士

「答えは……」

ガチャ

ネガ電王

「!?!」

門矢 士

「ノーだ」

ダウン!

ガキイ!

ネガ電王

「やはり断るか……」

士は、ドライバーを寄越さずネオデイエンドドライバーでネガ電王を撃ったがネガ電王の武器「ネガデンガツシャー」のソードバージョンで防いだ。

ネガ電王

「仕方がない「コレ」を使うか」

ガチャ

門矢 士

「何だその「時計」は？」

ネガ電王

「見てからの」

リザードマン兵士

「貴様何奴！」

ガキ

ガチャ

???

〔ネガ電王〕

ズポオ

ネガ電王

「お楽しみだ」

リザードマン兵士

「ギャアアアア!!」

ネガ電王?

「ヴェエエエエー!」

門矢 士

「何だあれはネガ電王なのか?」

士が驚くのも無理はなかったネガ電王が時計のような物でリザードマン兵士に埋め込んだと同時にネガ電王に似たような怪人になった。

ネガ電王

「いいや違うあれは “アナザーネガ電王” この “アナザーウォッチ” を使いアナザーウォッチを体に埋め込めばこんな姿になるのだ」

門矢 士

「アナザーウォッチって何だよ」

ネガ電王

「このアナザーウォッチはある世界にいたある組織が使用していたそれを “スオルツ” という男からもらったのだ」

門矢 士

「チ、や（ゾクッ）」

???

「フーン！」

ドゴオ

木場 勇治

「リザードマンさん!？」

門矢 士

「何しやがるトカゲ女!？」

士がネガ電王の話を聞いていた途中で後ろから女リザードマンが士を攻撃してきた。

女リザードマン？

「フッ」

ガチャ

門矢 士

「『戦国ドライバー』だと……」

ガチャ!

リンゴ?

〔リンゴ〕

女リザードマン？

〔変身……〕

ガチャン！

戦国ドライダー

〔ロックオン！〕

ガシイイイイン

戦国ドライダー

〔ソイヤ！〕

戦国ドライダー

〔ダークネスアームズ 黄金の果实〕

女リザードマン？

〔……〕

女リザードマンが何故か戦国ドライダーを持っており黒いリンゴを戦国ドライダーにはめ込み女リザードマンは黒い仮面ライダーに変身をした。

門矢 士

〔お前、仮面ライダー邪武（ジャム）！〕

木場 勇治

「仮面ライダー邪武？」

門矢 士

「お前、〃鎧武〃さんと〃龍玄〃にさんに倒された筈じゃあ!？」

仮面ライダー邪武

「私もネガ電王と同じさこの世界に流れネガ電王と協力し貴様の二つのドライバーを奪うためこの女の体に乗っ取ったのよ」

門矢 士

「ち、厄介な……木場さんこの事早くこの砦の王様に避難するように行ってください」

木場 勇治

「し、しかし……」

門矢 士

「こいつらの他にも〃ダークライダー〃がいるかもしれませんトカゲ軍団だけじゃ不利です」

木場 勇治

「分かった士君気よつけて」

門矢 士

「木場さんも……」

木場はホースオルフェノク・疾走態になり王の間に向かった。

ネガ電王

「フツ、はたして奴だけで『アイツ』に勝てるかな?」

門矢 士

「アイツ?」

ネガ電王

「フ……『牙王』さ」

門矢 士

「何!?!」